

# 自給飼料を活用した持続的酪農経営の確立 ～草と繁殖と私～

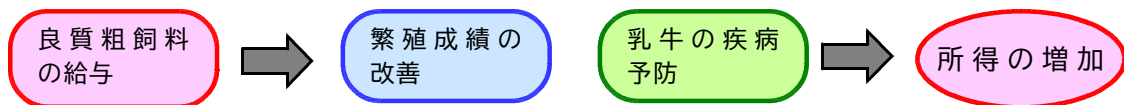
本所地域係 弟子屈町

## ◇ 活動のねらい

弟子屈町上仁多地域（12戸）は、ロボット搾乳から放牧利用まで多様な酪農経営を展開する地域である。全町的な離農戸数の増により、地域コミュニティの存続が危惧されつつも、H30年に新規参入者を迎え、将来の地域生産性とコミュニティへの貢献が期待されている。

当地域では、H29年度まで取り組んできた植生改善プロジェクトにより、積極的な草地更新を推進した結果、良質粗飼料確保の土台が築かれた。

これら良質粗飼料の給与により、新たに「繁殖成績の改善」「周産期疾病の予防」に取組み、地域の所得向上につなげることをねらいとする。



## 1 活動の経過



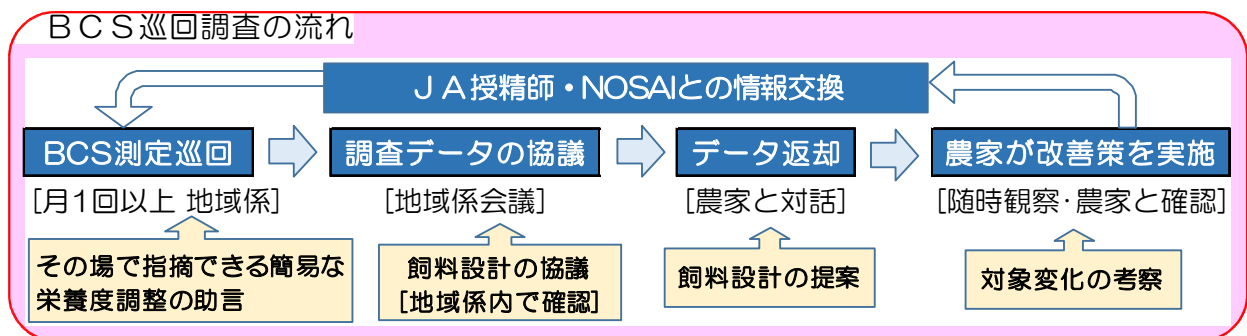
BCS調査の様子

OH30より酪農家5戸を対象にボディコンディションスコア(以下BCS)調査を行い、飼料給与改善の提案を実施。

○JA・NOSAIと連携し、分娩前後のBCSの推移や周産期疾病発生状況、受胎状況との関連を分析。

○2回の懇談会にて、重点活動の状況報告や、まとめた分析結果を提示し、成果の理解を促進。

○「プロジェクト4」に参画し、JA授精師に対しBCSの判定技術を伝承



アトピー改善のためのスコップ計量と給与作業負担軽減の提案(B農家)

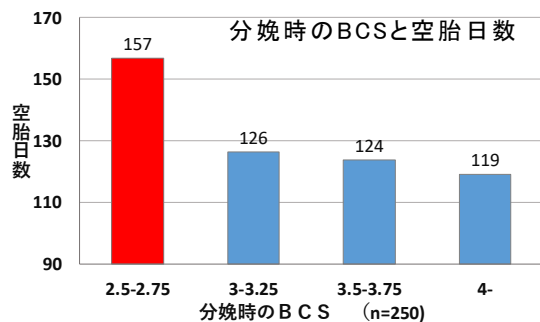


分娩後の栄養管理について(懇談会)

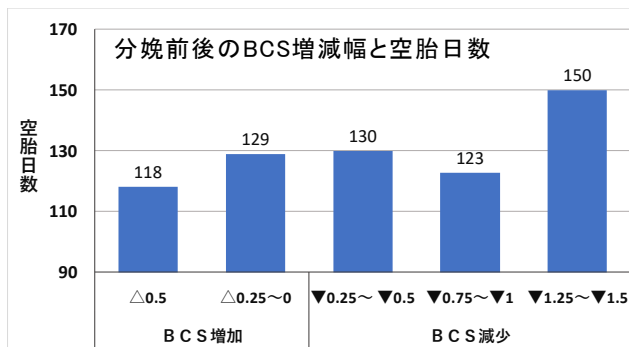


取組状況を地域・町内へお知らせ

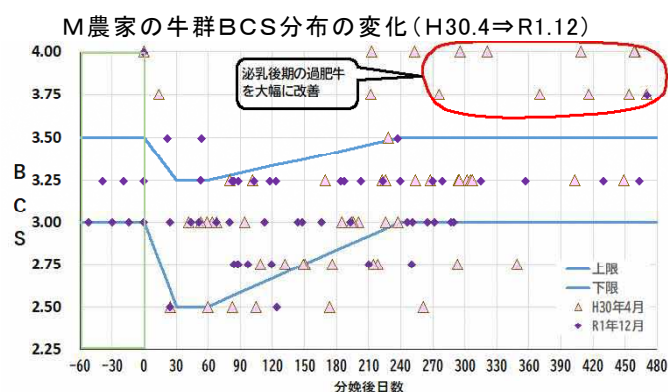
## 2 活動の成果



分娩時のBCSが2.75以下の時、受胎は遅延



分娩前後のBCS減少幅が大きいほど、受胎は遅延



BCSが概ね適正範囲に集約されたM農家の牛群



女性農業者の参加で地域懇談会が活性化

### 農家の取組および農家の反応

農家	農家が行った内容	農家の反応
B	給餌カート導入による労力軽減、アシドーシス対策と配合給与量の把握	「BCS調査データやNOSAI繁殖健診により、自家成績は良くなってるよ。普及センターの活動に感謝しています。」
M	栄養管理改善の取組み 泌乳後期・乾乳期の適正BCS維持	「周産期疾病が発生した時には、BCSデータで乾乳期管理の振り返りをしています。」
N	飼料給与の改善	「BCS調査やって良かった！」
H	H30年産低品質サイレージの飼料給与対応 (トップドレス配合増、ベースTMRの圧ベンコーン増)	「繁殖健診に合わせて、BCSデータを参考にしてるよ。」 10月以降は受胎も改善され、授精師も一安心。
F	初乳糖度の測定	「初乳糖度と分娩時BCSや受胎との関連はないようだ。」

☆上仁多のBCS適正範囲内分布を95%以上とする戸数目標を5戸とし活動推進。結果、8戸が達成。モデル農家5戸の牛群BCS分布は、泌乳ステージに応じた適正範囲内へ概ね収まった。

☆継続的なBCS調査結果に即した飼料給与改善の提案と、取組み実施の成果が見えたことにより、「BCSが疾病予防や繁殖成績向上に結びつく指標である」ことへの理解が進んだ。

## 3 今後の活動

☆BCSを活用した疾病予防と繁殖成績向上の成果を整理し、所得に及ぼすプラス効果を精査する。

☆BCSの評価を農業者自身が行えるよう、BCS評価法や栄養管理手法をまとめた資料を作成し、重点地域をはじめ、他地域への波及に努める。

